

□議員名：下瀬俊夫

## 1 ルネサスのリストラ合理化について

|    |   |
|----|---|
| 論点 | 車載半導体では世界1位の大企業だが、今回のリストラには一片の道理もない。NECなど大株主への要請や地域ぐるみで事業継続の運動を。                                      |
| 回答 | 後工程は閉鎖。前工程の縮小についても明確な返答がなかった。外国資本の導入などで事態がより深刻化する可能性もあり、県を中心に関係市がチームを組んで検討しているが、もう少し上の次元の協力も必要かもしれない。 |

|    |  |
|----|--|
| 論点 | ルネサス関連で約400人といわれる市内の離職者について、再就職対策等はどう考えているのか。  |
| 回答 | 9月の早期退職者募集で相当数の応募が見込まれるため、出張就職相談、委託訓練による職種転換、離職者緊急資金の貸付、緊急雇用創設基金の活用など雇用対策連携会議での再就職支援に全力を挙げて行きたい。 |

|    |  |
|----|--|
| 論点 | 各地で誘致企業の撤退や閉鎖が相次いでいるが、地元中小企業の育成や地域産業の活性化など産業振興の方向転換が必要ではないか。   |
| 回答 | 小野田楠企業団地への企業誘致だけでなく、市内企業の育成も重視している。昨今、誘致企業の撤退が相次ぐなか、市内企業の内発促進をより大きな視点で捉え、地域産業や中小企業が元気でいられるように産業振興策の見直しなども研究していきたい。 |

## 2 生活保護行政について

|    |  |
|----|--|
| 論点 | 日本の生活保護受給者は対象者の10分の1程度で外国では考えられない。親族の扶養義務は生活保護受給の絶対的な条件なのか。  |
| 回答 | 故意に収入を隠ぺいし所得隠しをするなどが不正受給の要件。生活保護の受給に先立ち、可能な限り扶養義務者から援助を受けることは必要だが、扶養義務の履行の有無だけで不正受給だと決めつける訳にはいかない。 |

### 3 議員定数問題について

|    |   |
|----|---|
| 論点 | 大都市圏などの一部市長の主導による議員定数削減、地域政党を立ち上げて議会を自らの政策実現に利用する動きをどう考えるか。 |
| 回答 | 公の立場で他の市長を評価できない。   |

|    |   |
|----|---|
| 論点 | 議員定数削減の請願を審議中なのに直接請求署名が提出された。問答無用な削減要求は二元代表制を否定することにならないか。  |
| 回答 | 直接請求の件はマスコミから聞いた。議員定数問題はしっかりと議会活動を見てもらい、市民の理解、市民の意見を聞きながら市民と議会が十分な意見交換をして欲しい。24の定数を何人減らすか、何人増やすは議会が決めることで、市長として別に意見はない。 |

|    |  |
|----|--|
| 論点 | 山陽小野田市議会のこの3年間の変化は目を見張るが、地方自治法改正による通年議会も提起されているが、市長はどう考えるか。                                |
| 回答 | 山陽小野田市議会は大変熱心で、閉会後の期日外の審査など通年に近い議会活動をしており感心する。他市の議会とは違う、立派な議会だと誇らしく思うし、政策提言にしても前向きな議会だと思う。 |